

令和4年度 自己評価及び学校関係者評価書

資料3

令和5年(2023年)3月24日  
市立札幌開成中等教育学校

1 本年度の重点目標

課題探究的な学習に向き合う環境を整える
---------------------

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	国際バカロレア(IB)が示す10の学習者像を意識した日常的な取組に努め、MYP(Middle Years Programme)およびDP(Diploma Programme)認定校の実現を目指し取り組むことができたか。	A	MYP・DP認定校として、国際バカロレア機構(IBO)と連携し教育活動を推進している。DP認定5年目となる本年度は昨年度のMYPに続き、IBOによる外部評価が行われ、認定校として一定の評価と課題が示された。校内で定める各方針の改定、ユニットプランの改善、国際的な視野の育成が課題として挙げられ、詳細なデータ分析をもとに、多くの学校関係者とともに改善することが求められる。	A	A
	SSHの取組を通して、教育課程の充実を図ることができたか。	A	3期目のスタートの年度として、6年間の一貫した課題探究活動を確立できた。また、道外研修として「つくばプロジェクト」や「屋久島プロジェクト」を実施し、他にタイへの海外研修を実施できた。各コンテストでは、科学の甲子園北海道大会で優勝し、全国大会へ出場を果たしたほか、個人研究において文部科学大臣賞を受賞する等、好成績を残すこともできた。今後も、生徒の幅広いニーズに対応できるプログラムを充実させていく。	A	A
	重点目標の内容は、学校や生徒の実態を踏まえた適切な設定となっているか。	A	本校では、課題探究的な学習に向き合う環境を整えることを重点目標とし、IBおよびSSHのフレームを活用している。IBでは多様な文化の理解と尊重の精神を、SSHでは科学的素養の育成と持続可能な世界・地域を創造するカリキュラムを開発している。そのために、地域、高大、産学の連携を強化し多数の支援者を得ている。生徒の研修への意識は高く、今後もこの状況を維持していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自己評価、改善策ともに適切です。 新型コロナウイルス感染症対策等の困難な社会状況下でありながら、学校運営上の諸問題に対し、献身的に取り組まれている努力に敬意を表します。 コロナ禍収束に向かい、より国際的な視野を育成できる環境を作っていくとしたいと思います。				
教育課程・学習指導	【課題探究】「なぜ、どうして」を大切にしたい。生徒自身が学びの主人公となる「課題探究的な学習」を充実することができたか。	A	コロナ禍での学習活動や環境の制限・制約があったが、各教科の工夫によって課題探究をベースとした指導が進められた。今後は各教科での学習方法や課題設定、概念のわかりやすさなどについて、ユニットプランナーの見直しを学校開発プランとして推進していく。また、教科を越えた交流を深め、生徒の学びがより深まるよう引き続き授業改善を進めていく。	A	A
	【専門性】理数英の専門学科の特色を生かした教育課程を編成することができたか。	A	SSHの学びの集大成であるコズモサイエンスの取組について、実験・実証の方法など、必要な知識やスキルを身に付けることのできる教育課程の編成に努めた。また、研究成果報告会ではオンラインによる発表を併用しつつ、英語でのプレゼンテーションも行うなど多彩な手法とアイデアにより多くの生徒が参加できる実施方法を整えることができた。教科としても、ネイティブ教員による英語による授業実施のコースを設けるなど、コズモサイエンスの取組と結びつく段階的な指導を実現することができた。	A	A
	【バランス】知徳体のバランスがとれた教育課程となっているか。	A	引き続き、道徳・総合的な学習(探究)の時間、特別活動の横断的カリキュラムである「こころからだの時間」を効果的に設定するとともに、自らの健康維持や体力向上に生徒が主体的に取り組む工夫に努めた。道徳は道徳教育推進教諭による全体計画を元に各学年の担当者を中心に運営が進められ、指導の方法や状況に応じた指導内容の工夫など、きめ細かな対応ができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自己評価、改善策ともに適切です。				
生徒指導・教育相談	【育てたい生徒像】生徒がTPOに応じたふさわしい対応ができるように支援することができたか。	A	引き続き、生徒支援に対する共通理解を深められるよう、研修内容の改善を進めて提供していく。特に、SELFの理念に基づいた、生徒の発達段階に応じた適切な支援の在り方について、今後も教員間の共通理解が図れるように努めていく。 また、個々の生徒に対する気づきや支援内容を共有できる環境の整備がされたことで、きめ細かな生徒対応をより一層進められるように、それらの活用方法の工夫・改善を図りながら進める。	A	A
	【異年齢交流】学校行事や生徒会活動を通して幅広い異年齢の交流を図り、生徒の自主性や協調性を育むことができたか。	A	日々の感染状況の変動により、学校行事においては予定を急遽変更せざるを得ない部分もあったが、感染拡大防止の対策を講じる中で、何とか開催Weekとして、体育大会や開成祭を実施することができたことは成果であった。 感染対策の緩和に伴い、年度後半は、探究を通じた異学年交流等が再開でき、生徒の学びや創造性を発揮できる場を更に充実できるように工夫・改善を図る。	A	A
	【教育相談】教育相談の充実を図ることができたか。	A	日課の中に設定されている、教育・学習相談ができる時間は、教員・生徒双方にとって効果的であった。生徒理解の一助として今後も継続をする。 アンケートやアセスの実施は、個々の生徒の困り感や特性を知る一つの手段として活用できた。しかし、更なる活用の深化を進めるためには、分析結果について理解を深める研修の充実を図る。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自己評価、改善策ともに適切です。 地域との関りを深めるボランティア活動においても、積極的に参加し、充実した活動内容となっていたと思います。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
（キャリア探究教育）	【主体的な取組】生徒が自らの生き方を主体的に考え将来を切り拓く力を養うことができるよう、進路探究の充実を図ることができたか。	A	生徒が主体的に考え、自分のため、社会のために動くことができる機会を提供するため、「Future Job Session(未来志向型進路探究学習)」や「コズモサイエンスプロセス(課題探究活動)」などのプログラム開発をした。次年度以降も継続して行っていく。	A	A
	【自己理解】体験活動を通して自分を知り、自立を目指すことができるような取組ができたか。	A	CSR活動(企業の社会貢献活動)に特化した職場体験活動をさらに発展させ、社会の中で自分らしく生きていくために必要な職業観・勤労観を身に付けることができるプログラムを更に研究し実践していく。	A	A
	【社会とのつながり】変化の激しい変わりゆく社会で自らどういう役割が果たせるかを生徒自身が意識できるような取組ができたか。	A	「SA(奉仕活動)・CAS(創造・行動・奉仕)」を発達段階に応じて校内から校外へ発展させる中で、校内のニーズ、社会のニーズを探究する経験を積み、社会の中で自分が果たしていく役割を考えるプロセスを作っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自己評価、改善策ともに適切です。 感染症対策が緩和されていけば、体験活動を復活させて効果が期待できると考えます。 企業のCSR活動に特化した職場体験は大変有意義なプログラムだと思いますので、更に充実した活動となることを期待します。				
保健・管理・安全	【見守り体制】生徒の安全・安心・快適さを維持する環境を整えることができたか。	A	生徒の見守りは、生徒理解と支援に関する研修を定期的に行い、支援の方法を確立する体制を構築した。また、外部講師を招へいし専門的な知見を共有した。IBプログラムが推進する日常的な貢献活動を通して、生徒は相互に安全・安心な環境を作り上げる意識を高めている。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自己評価、改善策ともに適切です。				
組織運営	全教職員が連携し、分掌業務を円滑に推進できたか。	B	分掌業務と各期業務(基礎期(1・2年)・充実期(3・4年)・発展期(5・6年))の分立体制で3年が経過し、組織体制の在り方について見直しの時期となった。今年度は、昨年度に新設した「サブジョブ」(業務の相互連携を強化するための役割)の機能を高めるべく会議の種類を細分化したが、業務推進の部分で改善の余地がある。より良い方向性を目指し業務フローの改善とサブジョブ機能の見直しを図っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自己評価、改善策ともに適切です。 ・組織運営は、複雑多岐で深遠に及ぶ課題があり、完全を求めるのは無理だと思います。 ・上下関係・横のつながりを更に風通しの良いものとし、校長先生を中心に、組織体制の充実を計ってほしいと思います。				
研修	生徒・保護者・教職員が課題探究的な学習を行うための環境整備を推進することができたか。	A	今回の評価訪問において大変良い評価をいただいた。特に生徒から、学問だけでなく自分自身を探究することができるという内容がいくつもあった。おそらく、無意識に出来上がっている部分もあるので、なぜこうなったのかも振り返りながら、意識化したうえで、より強くカリキュラムに落とし込むことが必要と考えられる。	A	A
	研修等で得たIBプログラムやSSH等の情報を保護者・教職員間で共有することができたか。	A	校内研修を通じて、学校開発プランをはじめ様々な学校運営に必要な情報の共有や議論ができた。学校開発に向けた研修をより持続可能で充実させるために、今後は基礎的な研修(今年度は「ユニットプランナー」の作成に重点)を動画等に記録し、主体的に振り返ることができる環境を構築していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自己評価、改善策ともに適切です。				
保護連携者、地域情報提供等の	入学を考えている児童に対し、必要な情報を適宜発信することができたか。	A	今年度の学校説明会は、従来の実施形態に近づけることができた。第1回(7月)は、入学を考えている小学生に対し、在校生が模擬授業や校舎案内を担当し、本校生徒のすがたを感じてもらった機会とした。また、保護者には教頭の進行による本校教職員によるパネルディスカッションを実施し、より深いIBの理解を促すことができた。第2回(9月)は募集要項を配布した。	A	A
	学校だよりやホームページ、懇談会などを通して、学校の様子がよく分かるように伝えているか。	A	今年度は、ホームページ「開成トピックス」の充実を重点とし、日々の様子を公開し、保護者からは高い評価をいただいた。学校公開日は8回の実施となり、PT会公開講座(進路・IBカフェ・講演会)は盛況であった。保護者のIBに対する意識が高いため、今後もPT会役員と協働し、より良い研修の設定に努めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自己評価、改善策ともに適切です。 ・引き続き、HPやオンラインでの情報発信の充実をお願いしたいと思います。				
教育環境整備	タブレット端末や他のICT機器は、課題探究的な学習を行う上で効果的に活用されているか。	A	タブレット端末(3年生～6年生)及びGIGAスクール端末(1・2年生)を安定して活用できる環境を整備した。また、オンライン上で閲覧できるリソース(図鑑や新聞記事)を次年度以降から活用できるよう年度末に整備した。セキュリティや利用に関するガイドラインを周知し、生徒は端末を自己管理できるスキルを身に付けている。	A	A
学校関係者評価委員による意見	自己評価、改善策ともに適切です。 ・コロナ禍(による休校など)は元より、通学困難などの事情がある生徒も、ICTを活用することで学びを継続できるような環境をさらに整えるなど良いと思います。 ・IT社会の実現は国際的事業となっており、未来への発展領域と思います。				